

2011年度の地震・防災訓練総括について

はじめに ー訓練実施の趣旨についてー

昨年度、一昨年度と2回の実施で出された課題を踏まえ、本年度もより実質化をはかるような訓練にすることを主眼とした。

特に今年3月11日に発生した東日本大震災の惨状を多くの学生、教職員が認識しており、意識の高い中で実施すべく、実施の内容の検討を進めた。

昨年度も話題になったが、実際に地震や火災が起きたときには避難場所にテントが設置されパソコンが備え付けられていることはありえないといった意見本年度の実施にあたって同様に受けた。

今回もスムーズな訓練の実施上、必要な部分について避難場所の設営をしたが、少しでも実際に近づけるよう①テント設置等に要する時間の計測、また、②停電を想定し、発電機によりパソコンを立ち上げ安否確認をする、といった新しい試みを行った。

昨年度同様訓練の趣旨として、訓練は訓練として位置づけた上で、実際に地震や火事が発生した時、まずどう対応するかを考えさせること、大学の中にいる時は何処が避難場所であり、そこまで行くための経路はどうなっているかを知っておくことは大変重要である。

1. 訓練実施当日の概況

当日時間等の周知を図るために、1時限開始前と1時限と2時限の間の休憩時間に本日実施の旨の学内アナウンスをした。

【訓練の内容】

12時から約2時間にわたり、3校舎同時の全学地震・防災訓練を実施。

学生や教職員他学内にいる全員を参加対象とした。

先ず12時に大規模地震が発生したとの想定で訓練に関する説明放送、その後しばらくしてから緊急地震速報を流し、まず身の安全を確保した後、避難場所への避難を開始した。

避難場所では前述のとおり、学生・教職員身分証データ読み込み等による全員の安否確認、訓練に関するアンケート調査、非常食の配布等、実質化に主眼を置いた訓練とした。

3校舎の本部となった豊橋校舎ですべての校舎の安否確認と被災状況を集約して、最終確認し終了とした。

各校舎終了時間が異なるが、最後に学長、副学長から教職員に対して講評をいただいた。

【全体の参加状況】 ※別添資料参照。

【安否確認の実施】

全学一斉での訓練実施3年目の今年は、昨年度に引き続き避難場所において、学生及び教職員全員の安否確認を実施した。

方法は、避難経路から避難場所の入り口付近に、学生証、教職員証（ICカード）を読み取るためのパソコンを設置し、駅の改札方式で列になってICカードをかざしパソコンに読み込ませた。なお、ICカードを忘れた学生及び教職員は別に用意した「安否確認カード」に記入させた。実際、ICカードを携帯していない学生は全体の数パーセントであった。

一時混雑する状況も生じたが総じて順調に流れた。

2. 講評

各校舎の実施当日の責任者からの講評は、以下のとおり。

【豊橋校舎】

今回で3回目となる避難訓練のため、実施状況に大きな混乱も見られず、整然とした訓練であった。回を重ねるごとに、それなりの改善が加えられ、より実際に近い状況が設定されている。その一方で、毎回ではあるが予定された避難訓練では、緊張感が維持されないとの指摘はあるが、現場で実際に動くことは、机上のイメージトレーニングやシミュレーションとは異なり、いわゆる体得する動きや現場で初めて気付く事象があり、訓練の持つ意義は大きいと認識している。

次年度に向けて、避難訓練の方法に再考が必要と感じている。1点目は、指摘されている予告なしの避難訓練実施の検討が、そろそろ必要ではないか。2点目は、授業中以外の訓練、たとえば昼休み中に地震が発生した場合の訓練は、ぜひとも必要ではないか。

準備したアンケート用紙が不足するほどの参加者数であったが、その反面、特定学部の教員の参加が少ない印象を持った。防災に対する意識の欠如、あるいは大学に対する意識の欠如なのであろうか。

【名古屋校舎】

今回の訓練実施に際して、ご指導いただき尾三消防本部の関係者の皆さんにまずは御礼申し上げます。併せて、訓練の趣旨を理解いただきご協力いただいた学生の皆さん、教職員の皆さんにも御礼申し上げます。

現名古屋校舎での訓練は、今回が最後となるが、広大な校地での訓練のあり方について改めて考えさせられるところがあった。具体的には、集合・避難場所を一カ所にするこゝとでよいのかどうかという点である。広大な校地の場合は、集合・避難場所との距離等を踏まえた場所の複数設定を今後検討すべきであろう。

また、かねてから指摘のあったテント等の設営を地震発生（放送）後にすべきではないかという点について、今回はそれらの設営等に要した時間の計測をお願いした。その結果を踏まえた今後の訓練のあり方の検討も必要である。

なお、名古屋校舎では、アナウンスが日本語のみならず英語と中国語でも行われた。その対応を高く評価すると共に、国際化という観点からは、今後、新・名古屋校舎のみならず、他の校舎でも同様の対応を検討していきたい。

【車道校舎】

避難訓練参加お疲れ様でした。参加者の皆さんのご協力を得て、昨年同様スムーズに訓練が実施されましたことを感謝いたします。

今回は、怪我人を救護する訓練を新たに取り入れるなど評価できる点もありましたが、やはり事前準備された訓練ということで、危機感と緊張感においては反省すべき点が多々あったと思います。

大切なことは、今回の訓練を通じて、地震の際は初動で何をするのか、避難場所はどこにあるのか、避難場所では何を行うのか、を再確認することです。さらにこの車道校舎のような都市型の高層ビルでは、避難ルートを常日頃から確認しておくなど冷静で迅速な避難ができるように意識することです。

消防署からいただいた講評でもありましたように、現在は学生である皆さんもやがて社会に出て今回のような訓練を指導する立場になるのですから、これを機に、日ごろから防災意識をしっかりと持つことです。

次年度はいよいよ新名古屋校舎を開校します。大学でも防災訓練の内容や方法を検討しなければなりません。皆さんも、これまでと違った環境であっても地震の際には混乱を生じず、冷静に対処できるよう準備しておく必要があります。

※別添資料 2011年度地震・防災訓練アンケート集計表ほか

以 上

2011年度 地震・防災訓練アンケート集計表 (2011年10月19日実施)

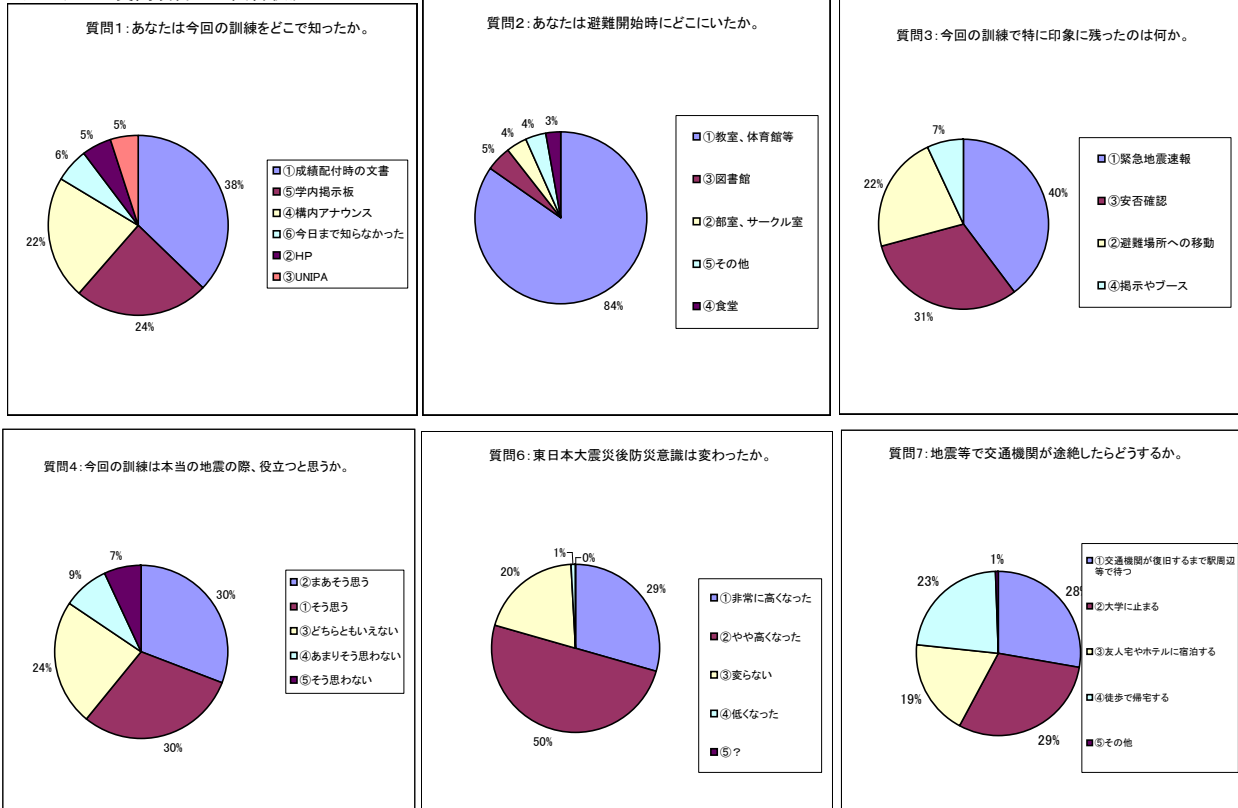
		1年		2年		3年		4年以上		不明			合計			総計
		男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	不明	男	女	不明	
文学部	豊橋	52	77	25	52	9	24	2	3	31	45	0	119	201	0	320
経済学部		70	27	11	6	17	3	4	2	21	9	2	123	47	2	172
国際コミュニケーション学部		37	94	9	35	6	10	5	2	12	48	2	69	189	2	260
地域政策学部		95	67									1	95	67	1	163
法学部	名古屋	42	39	35	17	5	1	3	0	17	3	1	102	60	1	163
	車道	0	0	0	0	31	17	4	0	5	8	1	40	25	1	66
経営学部	名古屋	60	30	27	22	12	9	3	1	20	18	1	122	80	1	203
現代中国学部	名古屋	27	50	21	24	20	15	2	0	19	18	0	89	107		196
学部計	豊橋	254	265	45	93	32	37	11	7	64	102	5	406	504	5	915
	名古屋	129	119	83	63	37	25	8	1	56	39	2	313	247	2	562
	車道	0	0	0	0	31	17	4	0	5	8	1	40	25	1	66
大学院	豊橋	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	名古屋	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	車道	10	0	0	0	0	0	0	0	7	4	0	17	4		21
短期大学部	豊橋	0	52	0	37	0	0	0	0	0	35	0	0	124		124
その他	豊橋									6	6	1	6	6	1	13
	名古屋									7	4	5	7	4	5	16
	車道									1	7	4	1	7	4	12
合計	豊橋	254	317	45	130	32	37	11	7	70	143	6	412	634	6	1,052
	名古屋	129	119	83	63	37	25	8	1	63	43	6	320	251	7	578
	車道	10	0	0	0	31	17	4	0	13	19	5	58	36	5	99

安否確認者数

	ICカード		安否情報カード		その他(名簿等)		合計	
	学生	教職員等	学生	教職員等	学生	教職員等	学生	教職員等
豊橋	1,364	110	26	57	0	0	1,390	167
名古屋	1,333	33	67	64	0	0	1,400	97
車道	132	41	2	6	0	0	134	47

3校舎合計数	
学生	2,924
教職員等	311
合計	3,235

アンケート質問項目への回答状況



質問5 (質問4で④、⑤と回答) で出された主な意見

・緊張感、危機感がない ・参加者が少ない ・パソコンによる安否確認の是非 ・避難場所の妥当性と避難経路の見直し
 ・教職員の真剣みがない ・実際の地震の想定を意識した訓練の実施 ・訓練実施の有効性 ・備蓄品の確保
 ・東日本大震災の被災地域での状況を参考に ・事前の情報周知が多すぎる ・予告なしの訓練にはどうか